

新型コロナウイルス感染症対策

～はじめてのクラスターを経験して～

施設名：介護老人保健施設 和光園

発表者：玉城大樹

荒井一世 濱田千夏

【はじめに】

コロナ禍が蔓延し、数年が経ち沖縄県でも、病院・介護施設にクラスター発生が続出する中、当施設は入所者に感染症を出すことなく経過することができていた。しかし、今年6月に風邪症状から入所者の一人に感染が発覚。そこから、感染拡大してクラスターへと発展してしまった。はじめてのクラスター発生で戸惑う中、感染対策について学びがあったので報告したいと思う。

さらに新たな感染症も発症しないとは限らない。そのために私たちは、高齢者施設に入所している入所者を守るために、今回の学びで満足せずこれからも感染対策の学びを深めていきたいと思う。

【クラスター発生期間と感染者人数】

6月10日～7月24日 23名

8月11日～9月9日 9名

【クラスター発生時の感染対策】

1. 看護師を専属配置
2. 食器の使い捨て容器への変更
3. おやつ提供の中止
4. リハビリの中止
5. 入浴を中止し、全身清拭・洗髪へ変更
6. おむつ交換の回数を減らすため使用するパットの変更
7. グレーゾーンの食事時間の変更と入所者の分散

【考察】

感染拡大防止のために業務の縮小や改善を行ってきた。一回目のクラスターでは、一人の感染者から急速に感染が広がり、スタッフの負担・苦痛・疲労、自分が感染してしまうのではないかという不安や業務遂行の責任感にストレスも増強していった。しかし、一回目のクラスターを経験したことで、二回目のクラスターの時には職員から様々な声が上がリ、感染対策の強化が図れ、感染拡大を最小限に最速に収束することができた。一回目のクラスターを経験したことで職員の感染対策に対する意識が高まった結果だと思われる。

【まとめ】

未だに終息しない新型コロナウイルス感染症に対し私たちは、これからも戦っていかなければならない。